

令和5年9月定例会一般質問

通告3

質問 带状疱疹ワクチンの助成をすべき

答弁 令和6年度の実施に向け検討してまいります

5番 佐久間^{さくま}ふみ子^こ 議員

【質問：佐久間ふみ子 議員】

5番、佐久間ふみ子でございます。带状疱疹ワクチン接種について質問いたします。

带状疱疹は、過去に水ぼうそうに罹患した方が加齢や疲労、またはストレスなどで免疫力が低下したことによって、体内に潜伏していたウイルスが再燃し発症するというものです。近年、高齢化に伴い带状疱疹の発症が増えていると言われています。その症状は背中や胸にピリピリ、チリチリといった皮膚の痛みやかゆみが起こり、その後、水膨れを伴う赤い発疹が帯状に広がり、眠れなくなるほどの激しい痛みを伴うことも少なくありません。

私の母も生前、带状疱疹にかかり、痛くて動くことも出来ないとベッドから起きられなくなり、皮膚の発疹が治った後も数か月間痛みが続きました。これは带状疱疹後神経痛と呼ばれる後遺症で、患者の約7から25%に起こり、痛みが続く症状です。他に角膜炎や顔面神経麻痺、難聴など、目や耳に障害が残ることもあるそうです。友人は7年前に顔面に発症して、神経痛の後遺症が残り、今も時々ピリピリとした痛み悩まされています。

国立感染症研究所によると、50歳以上から発症リスクが高くなり、80歳代までには3人に1人がかかると言われています。近年は高齢者に限らず、若い人の発症も増えているということで、既にそこにある普通の病気と言われております。

こうした带状疱疹の予防にはワクチンが有効とされており、生ワクチンと不活化ワクチンの2種類があり、生ワクチンは1回のみ接種で約8,000円。不活化ワクチンは1回当たり約2万円で、2回接種が必要です。予防効果として、生ワクチンは約50%発症を抑え、不活化ワクチンは発症を約97%抑える効果があるということです。

しかし、両ワクチンともに全額自己負担のため、高齢者、特に年金生活者にとって出費は大変大きく、接種をためらう高齢者も多いと聞きます。昨年4月より近隣の標津町では、



50歳以上に不活化ワクチンを1回接種、1万1,000円上限で2回分費用負担の助成を実施されています。根室市と網走市では、今年の4月から50歳以上に生ワクチン、不活化ワクチンともに半額分接種費用の助成を開始しています。

現在道内でも独自の制度を設けて、接種費用の助成を行っている自治体は増えているようです。中標津町においても、接種を希望される方の負担が少しでも軽減されるよう、接種費用の助成事業を実施すべきと考えますが、町長のお考えをお聞かせください。

【答弁：町長】

佐久間議員御質問の带状疱疹ワクチン接種について御答弁申し上げます。

带状疱疹の現状等につきましては、ただいま議員の御説明のとおりでございます。50歳以上の中高年層に多く発症しておりまして、80歳までに約3人に1人が発症し、高齢者ほど带状疱疹後神経痛になりやすいと言われております。2014年10月に小児水疱ワクチンが定期接種となり、水ぼうそうの流行が抑制されまして、高齢者が水ぼうそうなどへの接触機会が減り、弱まっていた免疫が再び向上するブースター効果を得る機会が減少しているため、带状疱疹発症が増加すると懸念をされております。

带状疱疹予防ワクチン、特に不活化ワクチンにつきましては、50歳以上で97.2%、70歳以上で89.8%の予防効果があると認められ、また、带状疱疹後神経痛の発症予防につきましても、50歳以上で100%、70歳以上で85.5%減少すると報告をされており、带状疱疹の後遺症に対しても高い効果が認められておりますが、接種費用が生ワクチンで6,000円から8,000円、不活化ワクチンにつきましては2回の接種が必要であり、1回当たり1万8,000円から2万2,000円となっております。全額自己負担での接種となっております。

北海道内の带状疱疹予防ワクチンへの公費助成につきましては、令和5年7月現在であります。生ワクチンのみを助成している自治体が3自治体、不活化ワクチンのみを助成している団体、自治体が近隣の標津町・白糠町を含む6自治体、両方のワクチンを助成している自治体が近隣の根室市を含む18自治体となっている状況でありまして、近年では新聞やテレビコマーシャルなどでも带状疱疹について報道されており、関心が高まっているところでもあります。

また患者の多くを受入れております町立中標津病院の院長からも、带状疱疹予防ワクチン接種助成についての提言を受けていることから、令和6年度の実施に向けまして検討してまいりますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。